

【自主防災組織について】

自分達の地域は自分達で守ろう！

大災害が発生したとき、私たちの住む地域はどうなるのでしょうか？建物の倒壊、火災の発生、水道や消火設備・道路の損壊、続出する多数の負傷者……。各地で多発する被害に対して公的防災機関が充分対処できないことも考えておかなければなりません。

いざというとき、被害を最小限に抑えるためには、地域住民による防災活動が必要になります。『自分達の家族やまちは自分達で守る』という意識を持ち、地域防災活動に取り組んでいきましょう。

◆自主防災組織とは??

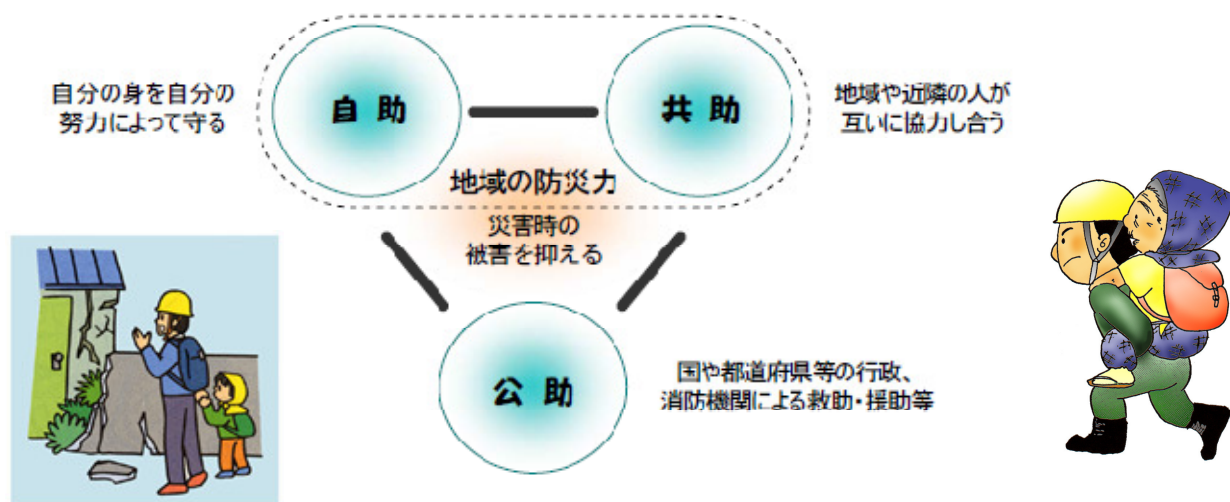
個人レベルで防災意識を持ち、家庭内の防災対策などを日頃から行っていたとしても、災害発生時に地域全体として有効な対処ができるとはいえません。災害に対してまちぐるみで力を発揮するためには、地域住民による組織的な防災活動が必要です。

自主防災組織は、住民同士が協力して自発的につくるもので、地域防災拠点になります。あなたのまちでも自主防災組織を結成し、災害に強いまちづくりを目指しましょう。

◆なぜ必要なの??

災害対策には『**自助・共助・公助**』の役割分担が必要です。大規模な災害になると公共の防災機関だけでは対応が困難になります。そこで『自分達の地域は自分達で守ろう』という住民活動の有無が生死を分ける場合もあります。

図 自助・共助・公助



みんなで学ぶことが大切

『災害を知り、地域を知る』ことは、それほど簡単なことではありません。まず、『**熱意**』と『**情熱**』、『**時間**』が必要です。

でも、あなたひとりが熱意を持ち長い時間をかけても、なかなか目標は達成されません。地域内外に仲間をつくり、みんなで一緒に災害を学び、地域を調べてみるのが大切です。

防災力向上の必要性

阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊による生き埋めや建物などに閉じ込められた人のうち、**約95%は自力または家族や隣人に救助され**、消防などの公的機関に助けられたのは、わずか1.7%だったというデータがあります。